【ファイル構造】

makeData

├analysis1-A.py

├analysis1-B.py

├analysis2-A.py

├analysis2-B.py

├analysis3-A.py

├analysis3-B.py

├analysis4-A.py

├analysis4-Bpy

├analysis5-A.py

├analysis5-B.py

├countTime.py

├newAna1.py

├newAna2.py

├newAna2\_scoreF-A.py

├newAna2\_scoreF-B.py

├newAna3.py

├newAna3\_scoreF-A.py

├newAna3\_scoreF-B.py

├newAna4.py

└newAna5.py

【ファイルの説明】

・analysis1-A.py/ analysis1-B.py

　文単位解析をするためのプログラム

　評価結果は、実験結果.docxの表１、２の2行目。

・analysis2-A.py/ analysis2-B.py

　文節単位解析Aをするためのプログラム

　評価結果は、実験結果.docxの表１、2の3行目。

・analysis3-A.py/ analysis3-B.py

　文節単位解析Bをするためのプログラム

　評価結果は、実験結果.docxの表１，２の4行目。

・analysis4-A.py/ analysis4-B.py

　文字列の完全一致を評価するためのプログラム

　評価結果は、実験結果.docxの表3。

・analysis5-A.py/ analysis5-B.py

　文字列の部分一致を評価するためのプログラム

　評価結果は、実験結果.docxの表4。

・countTime.py

　作業時間を調べるためのプログラム

　評価結果は、実験結果.docxの表１０、１１。

・newAna1.py ~ newAna5.py

　それぞれの評価の一致率を調べるためのプログラム

　評価結果は、実験結果.docxの表5~9。

1:文単位解析

2:文節単位解析A

3:文節単位解析B

4:文字列の完全一致

5:文字列の部分一致

・newAna2\_scoreF-A.py/ newAna2\_scoreF-B.py

　文節単位解析Aの再現率、適合率、F値を、係り先が既入力と未入力にわけて評価するためのプログラム

　評価結果は、実験結果.docxの表１２、１３。

・newAna3\_scoreF-A.py/ newAna3\_scoreF-B.py

　文節単位解析Bの再現率、適合率、F値を、係り先が既入力と未入力にわけて評価するためのプログラム

　評価結果は、実験結果.docxの表１４、１５。